



info



ごあいさつ

ウィンタースポーツ真々盛りの2月です。
寒いのは気温だけではなく、色々なものが
冷え込んでしまっておりますが、こういう時
こそ前向きにやっていきたいものですね！

倉橋 勇樹

連載企画

“一丁啮”が行く！ 第13回：定型処理と非定型処理

パソコンの使い方には二通りあります。決まりきった仕事を決まった手順通りに間違いないくこなす、いわゆる“定型処理”をさせるという使い方と、手作業や電卓でやりたいようにやっているじゃまくさいことをパソコンを使って簡単にしかも正確に早くやらせようとする“非定型処理”とがあります。

前者は会計ソフトで行う経理処理や販売管理ソフトで行う請求書発行処理などが該当して、誰がやっても同じ結果を得ることができます。（またそうでなければなりません）それに対して後者はExcelやWordのようにそれぞれの使い手の意思によって操作（作業）するので、出てくる結果（得られる結果）も人によって異なってきます。

この定型処理と非定型処理の違いをしっかりと認識しておかないと、システム化の失敗につながります。

A社は日々の売上をExcelに入力しています。請求日になると、売上データの表から該当する得意先のデータを抽出して別の表を作り、請求書の形にして印字しています。

B社では日々の売上は販売管理ソフトに入力し、請求書も販売管理ソフトから出力させています。社長が前年同期と比較するデータやグラフの出力を求めるとそのような出力ができるように販売管理ソフトをカスタマイズして使っています。

さて、A社とB社、システムの構築の仕方が間違っていないですか。

電子政府推進法ってご存知？

まだ出来てない法律なんですけどね・・・

これ、2009年の通常国会での通過を目指している法案の仮称で、要訳すると「今のままではややこしいから、全部コンピューターで管理しますよ！」という法案です。民間企業では当たり前の事なので何を今更という感じですが、一貫性の無い管理が大好きな御国様はそうではなかったようでして・・・

その内容かというと・・・

実は「まあ国の保持するデータもIT化しましょうよ！」って事だけで具体的な事は何も決まっています。しかし、去年の11月に日本経団連が、モデル法案を公表しているので掻い摘んで見てみると以下のような事が書かれています。

- 1、共通コードの導入
- 2、総理大臣の直轄機関として予算権限をもたせ、地方自治体にもIT化を推進させる機関を設ける

共通コードとは財務省（税金などを管理）や、厚生労働省（年金などを管理）など違う省庁でも個人を特定する共通するコードを作りましょう！という話です。と、言いますか私たちソフト屋からすると共通コード、若しくはそれに準ずるコードがなければ「読み方が違ったりしてデータの不一致が起こり、年金が行方不明になる」なんて事は考えるまでもなく当たり前の出来事で、呆れて物が言えないレベルです。住基ネットの時のように「国民を番号で管理するのか！」と、極端な意見も出るかもしれませんが、昨年からの年金受給問題のような事を回避したいのであれば、個人を特定する為のコードをとるのは、最低条件ですので早急に行うべきだと思います。

【2】に関しては「どの省庁のどのシステムにいくらかかっているかもわからない」ような状況なので、総理直轄の機関で一括管理しますよ。という甘くおいしい利権をすすっている人達にとっては発狂せずにはいられない内容になっています。尚且つ、地方自治体にIT化を促す機関としても機能させますという事ですね。

これは日本経団連のモデル法案でしかありませんし、どうい内容で国会に現れるかわかりませんが「起こってしまった事象を後悔の念を持って批判する」のではなく

「国会に法案が通る時に厳正にチェックする」という事を議員もメディアも私たちもしなければならぬと痛感します。

国会を通ればもう【後の祭り】ですからね！

シスポート
[Sys:port][®]

ホームページは <http://www.sysport.co.jp> または【シスポート】で検索！！！！

パソコンのお勉強!!

特集

チラシの意味が分かるようになる為のパソコンの部品を解説します

当たり前のように使われている言葉・単語だけれどよく考えると、よくわからない。電気屋にメモリ2GBと書いてあるけれど、よく考えると何なのかよくわからない。「このハードディスクでネットは出来るの?」なんて恥ずかしい事を聞かない為にお勉強。

CPU

コンピューターの世界では全て0と1の数字を計算して処理しているのですが、CPUはパソコンの中で【計算機】の役割を果たします。我々で言うと脳みたいなものです。「CPUが早い・高性能」というのは、1秒間に出来る計算が早いって事ですね! CPUはメーカーの違いなどで種類が多いので詳細は次回に取り上げますね。

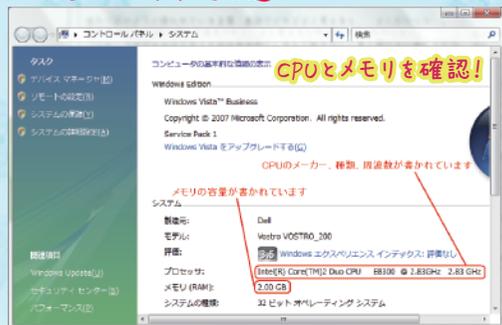
メモリ

メモリはCPUが計算(処理)する時に使う机の広さによく例えられます。机が小さいと辞書を見ながらノートに書き写す時、ノートを開くたびに辞書を閉じなければなりません。これでは作業ははかばかばかたらないですから、メモリは多い方が良いのです。メモリはファミコンのカセットの様なスロット式なので、比較的簡単に増設、交換ができます。Vistaで2GB、XPで1GB(512MBでも良い)くらいあればとりあえずは問題なしです。

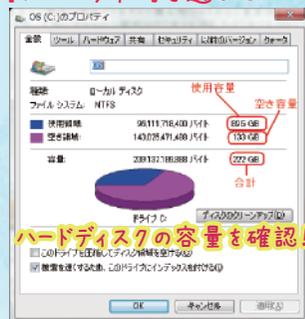
ハードディスク

ハードディスクはデータを「記憶して置いておく」所ですので、一番わかりやすいパーツです。大きければ大きいほど、たくさんの写真や動画や文章を保存する事ができます。ハードディスクは素人でも簡単に増設できますので購入時にはそれほど重要視しなくて良いのではないかと思います。ちなみに一般的なCD1枚で0.7GB、DVD1枚で4.7GBです。

マイコンピュータを右クリックして【プロパティ】を選ぶと……



マイコンピュータを開いてローカルディスクを右クリック【プロパティ】を選ぶと……



わかりやすい!

Vol.14

難しい用語を使わない! T講座 リモートデスクトップ

“リモートデスクトップ”という単語を聞いた事があるでしょうか? 大雑把に説明すると自分のパソコンから、Aさんのパソコンや会社のサーバを動かす事が出来る技術で、乗っ取られたAさんのパソコンや会社のサーバなどは、幽霊が操作しているかのように勝手に動いているような感じになります。これを使う事によって、社内に1台しかインストールされていない業務ソフト用のパソコンを操作する時に、わざわざそのパソコンの前に移動しなくても、自分のパソコンから業務ソフト用のパソコンをリモートデスクトップで乗っ取って操作する事ができます。(横着な話ですが……)

これを応用すると先月とりあげた、自宅や支店から本社のサーバーやパソコンを見ることが出来る【VPN】と組み合わせると【自宅や支店から本社のサーバーや本社のAさんのパソコンを動かす】事も簡単にできるようになります。それこそ幽霊が操作しているようで気持ち悪いですね(笑)

少し話は変わりますが、各支店や工場と本社をVPNで結び、販売管理や生産管理などのソフトのデータを本社で一元管理する場合、光回線などの高速インターネット回線が必要になります。しかし、離島や山間部では光回線が行き届いていない地域はまだ随分あります。この様な時に、今回取り上げているリモートデスクトップを更に応用した【ターミナルサービス】という技術を利用します。支店と本社間のデータのやりとりを直接する場合、高速インターネットでないと非常に動作が遅くなってしまいます。ですから本社に支店から操作する専用パソコン(サーバー)を置いて、リモートデスクトップで支店から、本社のパソコンを乗っ取って業務ソフトを操作する訳です。こうすると、支店間のデータを直接やりとりするのではなく、リモートデスクトップで使用する画像データだけをやりとりしますので、ISDN回線などでも動作が随分早くなります。

しかし、これでは支店で複数端末使用したい場合、本社に端末台数分のパソコン(サーバー)を設置しなくてはなりません。そこで【ターミナルサーバー】と呼ばれるものを設置すると、1台のパソコンの中で複数のパソコンの役割を果たす事ができます。この【ターミナルサービス】という技術を利用してターミナルサーバーを1台だけ設置して、支店から複数(1台のターミナルサーバーで5台程度まで)のリモートデスクトップを繋ぐ事が出来るようになります。通常のVPNを利用してデータの一元管理するよりもターミナルサービスを利用する分だけ余計に費用がかかりますので、光回線などの高速インターネットがある地域にはあまり縁のないターミナルサービスですが、離島や山間部など高速インターネット回線がない地域には大変有用な技術です。先月お伝えした【VPN】に今回取り上げた【リモートデスクトップ】と【ターミナルサービス】と、少し難しい話が続きてしまいましたがご理解いただけたでしょうか? 次回からはもう少し親しみ易い話題に戻しますのでご期待ください!

【発信元】シスポート株式会社

〒610-0361 京都府京田辺市河原平田23-16

TEL (0774)-63-1131 FAX (0774)-63-1130

e-mail info@sysport.co.jp

HomePage http://www.sysport.co.jp